環境レポート
ENVIRONMENTAL REPORT
Vol. 14

当社のパッケージはお客様の、そして社会全体の環境対応に貢献します。

昨今、海洋プラスチック問題など環境への意識が高まってきていますが、当社は**リデュース**（使用量を減らす）、**リサイクル**（再利用する）、**リユース**（再使用する）に取り組んでいます。ここでは、その一部を紹介いたします。

Fuji Seal International
株式会社 フジシールインターナショナル

フジシールグループ
環境目標と資源循環に向けた取り組み

フジシールグループでは、2020年度に策定された環境ビジョンに対応する形で、2021年度より新たな環境目標を定めました。今回は、フジシールグループの環境目標のご説明をするとともに、KPIの一つでもある再生可能設計製品展開の鍵ともなる市場に出た弊社製品の資源循環の仕組みづくりについてもあわせてご紹介致します。

環境ビジョンと環境目標について

フジシールグループでは、**気候変動・海洋プラスチック問題・資源枯渇**を重要な環境課題と位置づけ、これら環境課題の解決のため、製造における環境負荷低減への取り組みを中心とした『価値をまもる』アクションを土台としつつ、環境配慮型製品の開発・供給といった『価値を創造する』アクションに重きを置く環境ビジョンを策定し、**統合報告書2020**にてご紹介致しました。
これらに対応する形で、2025年度を目標年とする環境目標（既存のGHG排出量削減目標のみ目標年は2023年）を2021年度からの中期経営計画で定めています。

対応する具体的な目標設定

〈価値を創造する〉
環境配慮型製品の供給に関して
- ■ 環境配慮型製品売上 100%
  - ●再生可能設計製品売上 50%
  - ●再生材使用製品売上 20%
  - ●GHG排出量Scope3削減 モニター開始

〈価値をまもる〉
製造での環境負荷低減に関して
- ■ GHG排出量Scope1/2削減 6%（売上高原単位・2017年対比）
- ■ 有効利用されない廃棄物削減 10%（売上高原単位・2017年対比）
- ■ 大気・水質・土壌自主基準達成 100%

GHG排出関連の目標年：2023年。
段階的に目標を引き上げ、2050年ネットゼロを目指します。

『価値をまもる』取り組みに対応する目標としては、①製造における温室効果ガスの削減、②埋立廃棄物の削減、③大気・水質・土壌に関する自主基準達成の3つの項目を挙げています。『価値を創造する』取り組みに対応する目標としては、すべての製品を何らかの環境配慮を施した設計となっていることを大項目とし、その中でも再生可能設計製品と再生材使用製品については、特に注力する項目として個別のKPIにて目標設定を行いました。

再生可能設計製品

製品そのものがリサイクル可能であること

① 第三者の指針に基づくもの
- お客様
- 各国リサイクル協会
- 取引先

② 自社でリサイクルの仕組みを構築したもの

再生材使用製品

意図的に再生材を添加した製品

① ポストコンシューマー由来の再生材を含む

② ポストインダストリアル由来の再生材を含む

※プロセス内での回収・再生は含みません

また、これら環境配慮型製品・再生可能設計製品・再生材使用製品の開発・供給の結果に加え、自社のみならず取引先との連携によりサプライチェーン全体のGHG排出量を下げることを見込んでいますが、まずはGHG排出量Scope3をモニターできる体制を整えることを当面の目標とします。

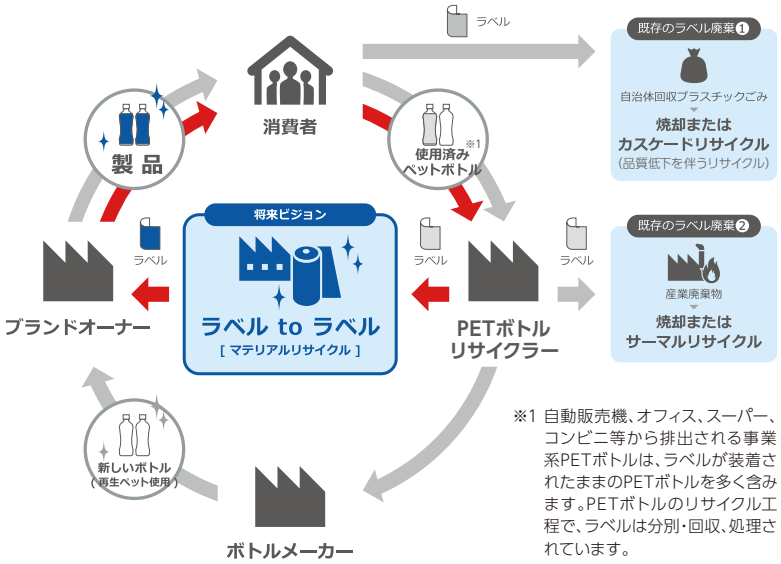
これら掲げた目標についての取り組み状況の一部は**ESG 2021 Data Book**や、**統合報告書2021**でも公開していますが、今後も定期的な公表を継続して参ります。

市場に出た製品の資源循環の仕組みづくり

環境目標として掲げた再生可能設計製品とは、お客様・各国リサイクル協会・取引先による指針で『リサイクル可能である』と認められるものの他、自社でリサイクルの仕組みを構築したものであるという基準を設けています。供給する製品をリサイクルに適した設計にシフトするということが、とても重要だと考えています。その上で、自社製品の中でも1961年フジシールが世界に先駆けて開発した包材であるシュリンクラベルについては、市場に出た製品の資源循環の仕組みづくりを構築することについても力を入れています。
シュリンクラベルの再生可能設計は、地域の慣習に即した形で、①ボトルにリサイクルする『ラベルtoボトル』と②ラベルをラベルにリサイクルする『ラベルtoラベル』の2つの考え方を持っています。

2018年に米州で展開を始めたボトルへのリサイクルが可能なシュリンクラベルRecShrink™は、お客様・取引先・リサイクル協会と一緒になり、ルール作りにも関与し、現在の市場展開に至ります。RecShrink™は、現在米州以外でも展開が始まっており、各地域での仕組みづくりに向け取り組んでいます。

また、日本では、シュリンクラベルの水平リサイクル『ラベルtoラベル』の実現に向け、リサイクラー・取引先と実証実験プロジェクトを開始し、2022年度の社会実装に向けた取り組みを開始しました。(IRニュース参照)



※1 自動販売機、オフィス、スーパー、コンビニ等から排出される事業系PETボトルは、ラベルが装着されたままのPETボトルを多く含みます。PETボトルのリサイクル工程で、ラベルは分別・回収、処理されています。

ラベル to ラベル フロー

PETボトルとラベルを機械的に分離するプロセスを持つ日本だからこそできるラベルリサイクルの形を模索して始めたプロジェクトですが、PETボトルの回収の現場に触れることで、経済性も含めより良いリサイクルの形を追究するため、全国清涼飲料連合会主催のPETボトル異物低減プロジェクトにも参画しています。PETボトルに付随するラベルやキャップも、ともに最適なリサイクルシステムを構築するために、今後もステークホルダー一丸となってシュリンクラベルのリサイクルの仕組みづくりに取り組んでいきます。